

所内トピックス

サイエンスキャンプ2001

企画調整部 情報資料課

将来を担う青少年の科学技術離れが懸念されている。このため、文部科学省では平成7年度から、最先端の科学技術に直接触れる機会を提供する「サイエンスキャンプ」を、全国の高校生等を対象に実施している。農業環境技術研究所では、この事業の趣旨に賛同し、毎年、十数名の参加者を受け入れてきた。

本年度は、各研究部の協力の下、情報資料課と研究企画科が事務局となり、8月8日（水）から10日（金）に実施した。以下の三つのコースを設定し、12名の募集を行ったところ、全国から科学技術に興味を持つ13名（男子10名、女子3名）の応募があった。



- A コース「農業の水生生物への影響を知る」
（農業動態評価ユニット 遠藤リーダー 他）
B コース「植物はどのようにして養分を獲得しているのか？」
（土壌生化学ユニット 阿江リーダー 他）
C コース「農耕地の温室効果ガスを測る」
（大気保全ユニット 米村主研 他）

初日の開講式では、理事長から熱のこもった歓迎の挨拶と、農業環境研究では時間、空間、俯瞰の視点が重要との説明があった。オリエンテーション、施設案内を行った後、各コースの説明を行った。

2日目と3日目午前中は、各コース別に担当研究者の指導のもとで、実験、観測、分析などに取り組み、3日目の午後、各コース別に発表会を行った。それぞれの実験や観測の結果を、工夫を凝らした OHP を使って発表する姿は、ほほえましさを感じさせた。その後、閉講式に移り、理事長から参加者に修了証を授与し、企画調整部長が体験の成果を称える挨拶を行った。最後に記念撮影を行って終了した。

3日間という短期間であったが、研究者が問題解決にどのように取り組んでいるかをまじかに体験したことで、科学技術の重要性に対する理解を深め、自ら探求する心を養ってくれたものと期待したい。各コースの講師を担当して頂いた方々をはじめ、企画や準備に携わって頂いた方々に御礼を申し上げる。

なお、「農耕地の温室効果ガスの測定」実習の様子が写真入で、9月15日発行の時事画報社「フォト」の特集記事「子供と科学 - 科学ほど楽しいエンターテイメントはない - 」に掲載された。

